

2017年(第28回)福岡アジア文化賞 受賞者一覧



大賞

パースック・ポンパイチット および クリス・ベーカー

タイ／経済学(1946年生まれ)、英国／歴史学(1948年生まれ)

1980年代から急速に経済発展してきたタイの社会変動を、東洋と西洋の知性の協働、社会科学と人文科学の融合をとおして複眼的で総合的な視点から分析し、学術研究の対象と方法にアジア発の新たな展開と深化をもたらすとともに、積極的な社会貢献を行ってきたパースック・ポンパイチット氏とクリス・ベーカー氏は、まさに「福岡アジア文化賞 大賞」にふさわしい。



学術研究賞

王名(ワン・ミン)

中国 / 行政学、NGO・市民社会研究(1959年生まれ)

中国におけるNGO(非営利の非政府組織)研究、環境ガバナンス研究の第一人者。清華大学でNGO研究センターを立ち上げ、NGO研究を中国へ導入したほか、公益慈善(Philanthropy)研究という新しい学問分野を開拓した。フィールド調査を重んじ、国外の社会科学的分析手法をも取り入れながら中国におけるこの分野の研究水準を高め、かつ多くの若手研究者を育成している。社会問題や環境問題の解決に向けてNGOの可能性を追究する王名氏は、まさに「福岡アジア文化賞 学術研究賞」にふさわしい。



芸術・文化賞

コン・ナイ

カンボジア / 音楽(1944年生まれ)

コン・ナイ氏は、カンボジアの多難な歴史を生き抜き、伝統的語り物音楽・チャパイの弾き語りを現代に伝える数少ない伝承者である。演奏、作曲によってこの音楽の魅力と可能性を世界に発信するとともに、後継者育成や国連の人権活動、障がい者支援の催しへの協力にも多大な貢献をしている。民族音楽を通じた国内外での活動は、まさに「福岡アジア文化賞 芸術・文化賞」にふさわしい。

大賞

パースック・ポンパイチット

および

クリス・ベーカー

(タイ／経済学、英国／歴史学)

【贈賞理由】

パースック・ポンパイチット氏とクリス・ベーカー氏は、1980年代から急速に経済発展してきたタイの社会変動を、東洋と西洋の知性の協働、社会科学と人文科学の融合、男女の感性の共鳴をとおして複眼的で総合的な視点から分析し、様々な境界を自在に超えて学術研究の対象と方法に新たな展開と深化をもたらしてきた。共著書は10冊を超え、国際的に活躍する知識人である。

パースック氏とベーカー氏の功績は数多くあるが、最大の貢献は、現代タイ社会が直面する数々の問題を、政治と経済を中心に、社会や文化、人々の価値意識にまで広げて、多面的かつ総合的に捉えようとした点である。例えば、1990年代前半の経済のバブル化を扱った『Thailand's Boom!

(タイのバブル)』(1996年)は、政治と経済の動きだけでなく、株や土地の投機に狂奔する人々や、新しい消費文化や若者の流行も取り上げ、当時のタイ社会の実態を生き生きと描いた。そして、1997年のアジア通貨危機でタイ経済のバブルが崩壊するや、直ちに『Thailand's Boom and Bust (タイのバブルと破綻)』(1998年)を刊行して、バブル崩壊の過程を克明に描き、2000年には、『Thailand's Crisis (タイの危機)』を上梓して、いち早くタイ経済危機の背景を分析し、進行中の経済改革の内容を紹介した。

パースック氏はケンブリッジ大学で経済学を学び、現代タイ経済の実証分析を1980年代から始めた。一方、ベーカー氏はケンブリッジ大学でインド亜大陸の歴史に取り組む気鋭の研究者だった。その後、パースック氏の帰国が決まると、ベーカー氏は大学の教職を辞し、彼女と共にバンコクに移り住む。以後、経済問題はパースック氏、芸能や文化はベーカー氏、政治問題は両者でといった、絶妙の分業と協力の関係を育んだ。政治と経済、社会と文化を有機的な全体として捉える複眼的な分析は、パースック氏とベーカー氏の編み出した学際的でユニークな手法である。タイの現代政治をビジネスの観点から分析した『Thaksin (タクシン)』(2004年)も、こうした協働作業によって生まれた傑作である。

パースック氏とベーカー氏はそのほかにも現代タイ社会に関する優れた著作を多数発表している。都市中間層、インフォーマルセクター、通貨危機後のタイ人資本家、経済的不平等の拡大、環境と社会運動などがテーマであり、いずれも鋭い問題意識と豊富な実証データに支えられた、現代のタイを理解するための好著である。

パースック氏とベーカー氏の協働作業で忘れてはならない業績は、新しい時代の教科書を意識して書かれた『A History of Thailand (タイの歴史)』(2005年)と、19世紀半ばから現在に至るタイの経済と政治を俯瞰した『Thailand: Economy and Politics (タイ：経済と政治)』(1995年。邦訳『タイ国 近現代の経済と政治』[2006年])の2冊であろう。この2冊は、タイ研究者のみならず、

東南アジアを研究する者にとっても、必読の文献となっている。

さらにもうひとつの偉大な業績は、タイでもっとも親しまれている長編叙事詩『The Tale of Khun Chang Khun Phaen (クンチャーン・クンペーン物語)』の韻文からの英訳である。この叙事詩の成立は遅くとも 1840 年代で、ラーマ 2 世王やタイの詩聖と呼ばれるスントーン・プーも参加した。ラーマ 5 世王の時代以前に使用されていた古語で書かれているだけでなく、古来インドなどの影響を受けてきた宮廷と庶民双方の生活や慣習、文化についての該博な歴史知識がない限り、英語への全訳は相当に難しいと言われてきた。それを成し遂げることができたのは、若い頃にインド史の専門であったベーカー氏の教養と、パーシック氏・ベーカー氏のタイ社会に関する博識によるところが大である。

両氏の共同研究は傑出しており、タイの代表的知識人として多大の社会的貢献をしてきたパーシック・ポンパイチット氏とクリス・ベーカー氏は、まさに「福岡アジア文化賞 大賞」にふさわしい。

第28回福岡アジア文化賞 大賞

パーasuk・ポンパイチット

クリス・ベーカー

タイ

経済学者

チュラロンコーン大学教授(経済学)

1946年2月11日生(71歳)

英国

歴史学者

独立研究者

1948年1月3日生(69歳)

経歴

パーasuk・ポンパイチット

- 1946 タイ、パトゥムターニー生まれ
- 1969 オーストラリア、モナシュ大学卒業(経済学) (コロンボ・プラン奨学金)
- 1971 タイ、チュラロンコーン大学経済学部講師
- 1978 英国、ケンブリッジ大学博士号(経済学)
- 1980-84 国際労働機関(ILO) 専門職員(開発経済学)
- 1988-89 シンガポール、東南アジア研究所(ISEAS) 研究員
- 2004- タイ、チュラロンコーン大学経済学部教授(2012- 名誉教授)
- 2001-13 ジョーンズ・ホプキンス大学(米国)、グリフィス大学(オーストラリア)、京都大学東南アジア研究所、ワシントン大学(米国)、東京大学社会科学研究所、政策研究大学院大学(GRIPS)にて客員教授を歴任
- 2016- Royal Society of Thailand アソシエート・フェロー

クリス・ベーカー

- 1948 英国、ランカシャー生まれ
- 1969 英国、ケンブリッジ大学卒業(歴史学)
- 1973 英国、ケンブリッジ大学博士号(歴史学)
- 1975-79 英国、ケンブリッジ大学クイーンズカレッジ歴史学科長、研究員
- 1980-97 RDR Bangkok 調査部長、Lintas Thailand and Singapore 社長、Riche Monde Thailand マーケティング部長を歴任
- 2003-13 国連開発計画(UNDP) Thailand Human Development Report, 2003, 2009, 2011, 2013 編集者
- 2009- Journal of the Siam Society 名誉編集者

主な受賞歴

パーasuk・ポンパイチット

- 1992 第4回アジア・太平洋賞特別賞(主催:毎日新聞社・アジア調査会) (『日本のアセアン投資: その新しい潮流』にて)
- 1999 アムステルダム、W. F. Wertheim Memorial Lecturer
- 2001 モナシュ大学、名誉校友
- 2009 タイ研究財団、特別教授賞
- 2011 バンコクポスト、現代タイで影響力のある女性65人

パーasuk・ポンパイチット および クリス・ベーカー

- 1997 タイ国家学術調査委員会 Best Book of the Year (*Thailand: Economy and Politics*)
- 2002 アメリカ図書館協会 Outstanding Book of the Year (*Thailand's Crisis*)
- 2013 アジア研究協会 A.L. ベッカー東南アジア文学翻訳賞 (*The Tale of Khun Chang Khun Phraen*にて)

主な著作

パースック・ボンパイチット

From Peasant Girls to Bangkok Masseuses, ジュネーヴ: ILO, 1982. (『マッサージ・ガール』田中紀子訳, 同文館出版, 1990)

The New Wave of Japanese Investment in ASEAN, シンガポール: 東南アジア研究所, 1990. (『日本のアセアン投資—その新しい潮流』松本保美訳, 文真堂, 1991)

Corruption and Democracy in Thailand (共著), バンコク: Political Economy Centre, Chulalongkorn University, 1994; 第2版, チェンマイ: Silkworm Books, 1996.

Guns, Girls, Gambling, Ganja: Thailand's Illegal Economy and Public Policy (共著), チェンマイ: Silkworm Books, シアトル: ワシントン大学出版, 1998.

クリス・ベーカー

An Indian Rural Economy: The Tamilnad Countryside 1880-1955, オックスフォード: クラレンドン出版, 1984.

パースック・ボンパイチット および クリス・ベーカー

Thailand: Economy and Politics, クアラルンプール: オックスフォード大学出版局, 1995. (『タイ国—近現代の経済と政治』北原淳, 野崎明監訳, 日タイセミナー訳, 刀水書房, 2006.)

Thailand's Boom and Bust, チェンマイ: Silkworm Books, 1998.

Thailand's Crisis, チェンマイ: Silkworm Books, シアトル: ワシントン大学出版, 2000.

Thaksin, チェンマイ: Silkworm Books, シアトル: ワシントン大学出版, 2004. 増補版, 2009.

A History of Thailand, ケンブリッジ: ケンブリッジ大学出版, 2005. 第3版, 2014.

Thai Capital after the 1997 Crisis, チェンマイ: Silkworm Books, 2008.

The Tale of Khun Chang Khun Phaen, チェンマイ: Silkworm Books, シアトル: ワシントン大学出版, 2010.

Unequal Thailand: Aspects of Income, Wealth and Power, シンガポール: シンガポール国立大学出版会, 2015.

The Palace Law of Ayutthaya and the Thammasat: Law and Kingship in Siam, イサカ: コーネル大学出版局, 2016.

Yuan Phai, The Defeat of Lanna: A Fifteenth-Century Thai Epic Poem, チェンマイ: Silkworm Books, 2017.

A History of Ayutthaya: Siam in the Early Modern World, ケンブリッジ: ケンブリッジ大学出版, 2017.

学術研究賞 王名（ワン・ミン）

（中国／行政学、NGO・市民社会研究）

【贈賞理由】

王名氏は、中国の経済発展とともに関心を集めてきた NGO（非営利の非政府組織）研究、環境ガバナンス研究の第一人者である。留学していた日本から帰国後、1998年に清華大学の教職につき、ほぼ同時期、中国で初めての NGO 研究センターを立ち上げた。NGO 研究とは 1990 年代以降生まれてきた様々な NGO を対象に、その活動や組織、ネットワーク、政策及び制度作りなどを研究し、安定した市民社会の形成を目指した学問であり、氏はこの新たな分野を切り開いた先駆者である。

王氏は、1959年にウルムチ市で生まれ、1983年に蘭州大学経済学部を卒業。1992年に来日し、福井大学、京都大学で学んだ後、1994年に名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程に入学し 1997年に博士号を取得した。1998年、清華大学 NGO 研究センターを創設、初代所長に就任した。また赤十字協会理事（2004年～）、障害者基金会副理事長（2006年～）、明德公益研究センター理事長（2012年～）などの要職を歴任し、社会問題の解決、市民活動、市民社会の充実に努めている。さらに公益慈善（Philanthropy）の研究を開拓し深め、2015年に清華大学公益慈善研究院の創立に尽力し、院長に就任した。

王氏のこのような社会活動を学術的に支えてきたのが、同僚および若手研究者などと頻繁に行ってきたフィールド調査である。それらの成果は、氏主編のシリーズ『中国 NGO 研究—ケーススタディー』、『四川大地震公民行動報告』などに見られる。最近では、中国 NGO の代表的なリーダー約 100 名の聞き書き調査・研究を行い、その成果は、『中国 NGO 口述史（オーラルヒストリー）』（第一部 2012年、第二部 2014年）として出版された。これらは今後の中国における NGO 研究、活動の学問的基盤となる。

王氏はまた、国際的な NGO 研究を中国に取り入れ、より客観的、社会科学的な学問にすべく、この数十年間、ドイツ、日本、英国、米国、香港など各国・地域の非営利組織の状況を視察し、フィールド調査をベースにまとめた 5 冊の著作（『ドイツの非営利組織』『日本の非営利組織』『英国の非営利組織』など）を出版している。これらの学術活動が、中国における NGO 研究の水準を飛躍的に高めたことは言うまでもない。

同時に、清華大学の NGO 研究センターおよび公益慈善研究院における教育活動は多くの若手研究者の育成に多大な貢献をなしている。王氏自身もそうであるが、氏の下で育った若手研究者も少なからず日本の大学に留学し、NGO 研究、市民社会研究を行い、それらの専門家として活躍するようになっている。氏は日中の人的交流の緊密さが咲かせた大輪であり、教育者としての功績も高く評価されている。

中国の深刻化する環境問題、感染症問題などの様々な分野で、日本と中国は相互に協力関係を築いていくことになるだろう。そのような中で王氏の行ってきたこれまでの学術的、教育的功績はまさに日中協力の促進に重要な役割を果たしてきたと言えよう。

以上のように王名氏の功績はまことに顕著であり、まさに「福岡アジア文化賞 学術研究賞」にふさわしい。

第28回福岡アジア文化賞 学術研究賞

ワン・ミン
王名

(WANG Ming)

中国

行政学者、NGO・市民社会研究者

(清華大学公共管理学院教授)

1959年1月2日生 (58歳)

経歴

1959 中国、新疆ウイグル自治区ウルムチ市生まれ
1983 蘭州大学卒業 (経済学)
1983-85 西安政治学院経済学部助手
1988 中央党校修士号 (世界経済学)
1988-92 中央党校経済学部講師
1997 名古屋大学博士号 (国際開発学)
1998- 清華大学 21世紀発展研究院副教授、清華大学 NGO 研究センター所長
2000- 清華大学公共管理学院副教授
2001-06 清華大学公共管理学院教授、副院長
2003- 第10、11、12回中国政治協商会議全国委員
2004- 香港理工大学客員教授、中国赤十字協会理事、国務院民生部専門委員
2005- マカオ理工大学客員教授
2006- 中国障害者基金会副理事長
2007- 『中国非営利評論』(中文・英文) 編集長
2012- 明德公益研究センター理事長
2013- 国務院政府機能改革評価委員会委員
2014- 中国社会組織促進会副会長
2015- 中国社会ガバナンス研究会副会長
清華大学公益慈善研究院教授、院長

主な受賞歴

2013 責任中国 2013 公益盛典組織委員会 (広州) 公益思想賞
2014 中国慈善年会組織委員会 (北京) 慈善推動者賞

主な著作

『中国 NGO 研究—以案例为中心 (中国 NGO 研究—ケーススタディー)』(主編),北京: UNCRD (国際連合地域開発センター), 2000.

『中国 NGO 研究—以案例为中心 2001』(主編),北京: UNCRD, 2001.

『中国社団改革—从政府选择到社会选择 (中国社団改革—政府選択から社会選択へ)』(共著), 北京: 社会科学文献出版社, 2001.

『中国の NPO—今、社会改革の扉が開く』(共著),東京: 第一書林, 2002. ※日本語

『非営利組織管理概论 (非営利組織管理概論)』北京: 中国人民大学出版社, 2002.

『中国非政府公共部門 (中国非政府公共セクター)』(主編), 北京: 清華大学出版社, 2004.

『民間組織通論 (民間組織通論)』(共著), 北京: 時事出版社, 2004.

- 『中国公共管理案例 (中国公共管理ケーススタディー)』(共著), 北京: 清華大学出版社, 2005.
- 『德国非营利组织 (ドイツの非営利組織)』(共著), 北京: 清華大学出版社, 2006.
- 『日本非营利组织 (日本の非営利組織)』(共著), 北京: 北京大学出版社, 2007.
- 『中国民间组织 30 年—走向公民社会 (中国民間組織 30 年間—公民社会へ向かって)』(主編), 北京: 社会科学文献出版社, 2008.
- 『汶川地震公民行动报告 (四川大地震公民行動報告)』(主編), 北京: 社会科学文献出版社, 2009.
- 『英国非营利组织 (英国の非営利組織)』(共著), 北京: 社会科学文献出版社, 2009.
- 『非营利组织管理概论(修订版) (非営利組織管理概論(修正版))』北京: 中国人民大学出版社, 2010.
- Emerging Civil Society in China, 1978-2007* (主編), ボストン: Brill Press, 2011. ※英語
- 『中国 NGO 口述史(第一輯) (中国 NGO 口述史(第一部))』(主編)北京: 社会科学文献出版社, 2012.
- 『美国非营利组织 (米国の非営利組織)』(共著), 北京: 社会科学文献出版社, 2012.
- 『建言者说 (政策提言者の提言)』北京: 社会科学文献出版社, 2013.
- 『社会组织论纲 (中国 NGO 論)』北京: 社会科学文献出版社, 2013.
- 『社会组织与社会治理 (社会組織と社会ガバナンス)』(共著), 北京: 社会科学文献出版社, 2014.
- 『中国 NGO 口述史(第二輯) (中国 NGO 口述史(第二部))』(主編), 北京: 社会科学文献出版社, 2014.
- 『香港非营利组织 (香港の非営利組織)』(共著)北京: 社会科学文献出版社, 2015.
- 『非营利组织管理 (非営利組織管理)』(共著), 北京: 中国人民大学出版社, 2016.
- 『我行我素 (私の歩み、私の素食)』北京: 北京聯合出版公司, 2016.
- 『建言者说(第二輯) (政策提言者の提言(第二部))』北京: 社会科学文献出版社, 2017.
- A Discussion on Chinese Road of NGOs: Reform and Co-governance by Society*, ベルリン: Springer Nature, 2017. ※英語

※言語表記のないものは中国語

芸術・文化賞 コン・ナイ

(カンボジア／音楽)

【贈賞理由】

コン・ナイ氏は、内戦とポル・ポト時代の弾圧を奇跡的に生き延び、今も活発に演奏・作曲活動を続けているカンボジアの伝説的吟遊詩人である。チャパイ・ダン・ヴァンという頸の長い弦楽器を弾きながら、古代インドの「ラーマヤナ」に基づくカンボジアの一大叙事詩「リアムケー」の朗読の他、日常の出来事、人々の感情、教訓、社会風刺までさまざまな事象を取り上げ、豊かな表現で謳いあげる。この音楽は、2016年にユネスコの「緊急に保護する必要がある無形文化遺産の一覧表」に登録され、カンボジア人だけでなく、世界の人々の心に深く響く優れた芸能として、価値が認識された。氏はその貴重な伝承者である。現在、その活躍の場は、カンボジア国内はもとより、イギリス、オーストラリア及びニュージーランド(以上、WOMAD 2007・08年)、日本(音の世界遺産「コン・ナイ」[2009年]、「障がいとアーツ」[2015年])、アメリカ(シーズン・オブ・カンボジア・フェスティバル[2013年])などへの出演にも広がっている。また、『A Cambodian Bard』(2006年)、『Mekong Delta Blues』(2007年)、『The Rough Guide to Psychedelic Cambodia』(2014年)などのCDによっても、多くの人にチャパイ弾き語りの魅力を発信している。2010年の世界人権デーでは、女性の権利を謳った新曲「Woman」を披露した。

コン・ナイ氏は、1944年、カンボジア南部のカンポット州の小さな村で生まれた。4歳の時天然痘で失明し、13歳から叔父についてチャパイを習い始め、音楽家となった。無差別に大量虐殺が行われた1970年代後半のポル・ポト時代を奇跡的に生き延び、その後も内戦が続いたにもかかわらず、演奏活動に復帰した。1982年にチャパイのコンクールで優勝し、さらに地元カンポット州のコンクール、プノンペンのチャパイコンクール(1991年)でも優勝し、1991年から2007年にかけて母国の平和構築と文化復興のために文化芸術省の職員としてチャパイの演奏に従事した。2001年には文化芸術省によって「チャパイ・マスター」(日本の人間国宝に相当)に認定され、NPO団体カンボジアン・リビング・アーツの支援によるプログラムなどで次世代のチャパイ奏者の育成に取り組んできた(2003・12年)。

チャパイ弾き語りによく似た芸能として、日本には盲僧琵琶や平家琵琶の伝統があるが、旋律、歌詞両面において、チャパイ音楽の方が即興性が高い。民衆を飽きさせないため、当意即妙に歌詞を替えたり旋律を変奏するのである。そのためには作詞のための教養と知性や卓越した音楽性と技術が求められる。コン・ナイ氏の最近の活動には、ロックとの共演(プノンペン、世界人権デー2010のイベント)、ジャズとの共演(シーズン・オブ・カンボジア・フェスティバル)、オーケストラとの共演(東京藝術大学、「障がいとアーツ」)などがあるが、伝統的なレパートリーの中で培われた即興能力が、こうした他ジャンルとの刺激的な協奏を可能にする柔軟性を育んだのだろう。

このように、コン・ナイ氏は、カンボジアの多難な歴史を生き抜き、貴重な伝統音楽・チャパイの弾き語りを現代に伝える優れた伝承者として、演奏、作曲、後継者育成、さらに国連の人権活動や障がい者支援の催しへの協力など、多彩な活動をグローバルに展開してきた。その貢献は、まさに「福岡アジア文化賞 芸術・文化賞」にふさわしい。

第28回福岡アジア文化賞 芸術・文化賞

コン・ナイ

カンボジア

吟遊詩人、チャパイ・マスター

1944年3月15日生まれ (73歳)

経歴

1944	カンボジア、カンポット州生まれ
1948	天然痘を患い、4歳で失明
1957	叔父からチャパイ演奏、リアムケー (サンスクリット語のラーマヤナに基づくカンボジア叙事詩) を教わる
1959	故郷の村でチャパイ奏者として初めての演奏
1970年代	クメール・ルーージュが政治プロパガンダに利用しようとするが、歌詞で抵抗 キリング・フィールドから家族と生還
1991-2007	カンボジア、文化芸術省チャパイ奏者
2003-12	プノンペンのカンボジアン・リビング・アーツで後進の指導にあたる
2010	世界人権デーを祝し、国連高等難民弁務官事務所 (UNHCR) に協力し「Our Rights」 および「Woman」(共作:カンボジアン・スペース・プロジェクト) 制作
2011	TEDx プノンペン(テーマ:未来の構築) オープニングにて演奏

主な受賞歴

1982	最初のチャパイコンクールおよびカンポット州のチャパイコンクール優勝
1991	プノンペンのチャパイコンクール優勝
2001	カンボジア、文化芸術省よりチャパイ・マスター認証 フン・セン首相よりカンボジア文化への貢献によるグランド・オフィサー(Grand Officer of Cambodia Cultural Reputation)
2002	カンボジア、文化芸術大臣よりチャパイの技認証
2007	フン・セン首相よりカンボジア文化への貢献によるゴールド・グランド・クロス(Gold Grand Cross of Cambodia Cultural Reputation)
2013	Cambodian First Step Organization より認証

主な海外公演

2007	WOMAD (World of Music, Arts and Dance) 2007 (英国、ウィルトシャー)
2008	WOMAD New Zealand 2008 (ニュージーランド、ニュープリマス) WOMADelaide 2008 (オーストラリア、アデレード)
2009	音の世界遺産 #4 コン・ナイ(東京)
2013	シーズン・オブ・カンボジア・フェスティバル (米国、ニューヨーク)
2015	藝大21 藝大アーツ・スペシャル 2015 障がいとアーツ (東京)

CD 作品

A Cambodian Bard (INEDIT/Maison des Cultures du Monde, 2006)

Mekong Delta Blues (Long Tale Recordings, 2007)

※カンボジアン・スペース・プロジェクト のオウチ・サヴィー共演

The Rough Guide to Psychedelic Cambodia (World Music Network, 2014)

※カンボジアン・スペース・プロジェクト &コン・ナイとして参加

2017年(第28回)福岡アジア文化賞 公式行事一覧

2017年(第28回)福岡アジア文化賞授賞式

- 2017年9月21日(木)／18:30～20:00
- アクロス福岡 1階 福岡シンフォニーホール

祝賀会(受賞者の栄誉を讃える祝典)

- 2017年9月21日(木)／20:20～21:30
- アクロス福岡地下2F イベントホール

学校訪問(受賞者から次世代を担う青少年へメッセージ発信)

- 2017年9月22日(金)
- 福岡市内の学校

市民フォーラム(受賞者による講演ほか)

大賞受賞者: パースック・ボンパイチット氏 および クリス・ベーカー氏によるフォーラム

「愛と喪失の物語: 三つのタイ古典文学と、今を生きる私たちへのメッセージ」

- 2017年9月24日(日)／11:00～13:00
- エルガーラホール 8F 大ホール

学術研究賞受賞者: 王 名(ワン・ミン)氏によるフォーラム

「環境問題における日中協力の課題と可能性: 市民社会の現在と未来」

- 2017年9月23日(土)／13:00～14:30
- エルガーラホール 8F 大ホール

芸術・文化賞受賞者: コン・ナイ氏によるフォーラム

「未来につなぐカンボジアの心: コン・ナイの語り物音楽の世界」

- 2017年9月23日(土)／16:00～17:30
- イムズ 9F イムズホール